様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2007～2009
課題番号： １９５２０６２６
研究課題名（和文） 現代アメリカにおける先住民運動に関する史的考察

研究課題名（英文）A Historical Consideration of Native American Movements in the Contemporary U.S.

研究代表者
内田 綾子 (UCHIDA AYAKO)
名古屋大学・国際開発研究科・准教授
研究者番号：２０２８３４６８

研究成果の概要（和文）：本研究は、1960・70 年代に米国で展開した先住民運動に焦点をあて、現代アメリカ史の文脈においてその意義を考察した。先住民団体等の記録からその問題意識を探り、州・連邦先住民政策の変容を分析した。当時の先住民は公民権運動や学生運動等の影響を受け、対抗文化の興隆とともに先住民以外の支持も引きつけた。しかし、各地の運動は常に先住民独自の意識に支えられて発展したと言える。

研究成果の概要（英文）： This study focused on Native American movements in the 1960s and 70s and considered its significance in the contemporary U.S. history. Through the records of several Indian organizations, it explored Native American consciousness and transformation of the state and federal Indian policies. The Civil Rights Movement and student activism influenced their strategies while many non-Indians supported their claims with the rise of counter-culture. Nevertheless, Native American movements were always sustained by their distinct Indian identity throughout their development.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合 計 |
|---|---|---|---|
| 2007 年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2008 年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2009 年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総 計 | 2,900,000 | 870,000 | 3,770,000 |

研究分野： 人文学
科研費の分科・細目： 史学・西洋史
キーワード： アメリカ、先住民、歴史

## 1．研究開始当初の背景

(1) 研究代表者はこれまで、米国の先住民史を主な課題とし、20世紀における先住民アイデンティティの生成を合衆国との関係史において検討してきた。先住民の歴史的記憶と文化継承について考察する中で、とくに1960・70年代に興隆した先住民運動について分析を掘り下げる必要を見出した。

(2) 20世紀における合衆国の先住民政策は、同化主義と自治尊重の間を揺れ動いたが、1960・70年代には従来の同化主義的な「連邦管理終結政策」から「自決(self-determination)政策」へと移行した。黒人運動の影響を受けて興隆した先住民の権利運動は、州・連邦政府に従来の先住民政策の見直しと制度的改革を迫った。その結果、1975年のインディアン自決・教育援助法を始めとする諸法が制定され、政策決定過程において先住民との協議が尊重されるに至った。このように1960・70年代は、先住民運動が高まる一方で、連邦政策が従来のパターナリズムからパートナーシップへ移行した時期である。

(3) この時期の先住民運動に関する研究は、合衆国において1960・70年代の史料整理・公開とともに徐々に着手されている。しかしながら、運動に関する歴史的評価は定まっておらず、各先住民団体の活動や運動が政策にもたらした影響について分析を掘り下げる必要がある。日本では、19世紀や20世紀前半の連邦政策に関して研究が蓄積しているが、第二次世界大戦後の動きについては分析が限られている。

## 2．研究の目的

本研究は、主に以下の二点を目的とした。

(1) 先住民意識と運動の展開： 1960・70年代における各先住民団体の動きを分析し、その背景と要因を検討した。そして、運動の動機や目的を把握するとともに、そこに見られる先住民アイデンティティと歴史観を分析した。当時は、アルカトラズ島占拠（1969－71年）や「破られた条約の旅」(1972年)、ウンデッドニー占拠（1973年）といった一連の抗議行動が起こったが、これらの事件以外の動きにも注目することで、先住民運動のより重層的な理解を目指した。

(2) 世論と政府の反応： 当時の先住民運動に対する一般世論の反応とともに、州・連邦政府の対応も分析した。政策的には、70年代にかけて従来の先住民政策の改革が推し進んだが、はやくも70年代末には先住民の権利に対するバックラッシュが見られた。この過程で、先住民とアメリカ社会との間に見られた齟齬や調整を分析しつつ、この時期の先住民運動がアメリカ現代史において持つ意義を明らかにすることを試みた。

## 3．研究の方法

(1) 本研究は、基本的に申請者が単独で調査・論文作成を進めたが、主に歴史学の手法により文献資料を用いた。マイクロフィルム、関連の論文・研究書等を入手したほか、夏期休暇を利用し、米国の大学図書館等にて史料調査・収集を行った。とくに、先住民団体の記録・機関誌、先住民個人の文書・オーラルヒストリー、公聴会証言記録、新聞等の一次史料を入手した。帰国後、これらの史料の読

み込みと分析を行った。

4．研究成果

(1) 平成19年度は、1960・70年代に運動を展開した先住民団体の中でも、全国インディアン青年評議会（NIYC）とアメリカ・インディアン歴史協会（American Indian Historical Society）に注目して検討した。これらは、いずれも60年代初頭に活動を始めた団体である。

資料調査として、米国にて2週間の史料収集を行い、ニューメキシコ州とカリフォルニア州にて、双方の活動に関する記録・文書を閲覧・複写した。帰国後は、これらの史料を分析するとともに、関連の研究書や博士論文、マイクロフィルム・フィッシュ史料を取り寄せた。

1961年に先住民の若者を中心にニューメキシコ大学で設立された全国インディアン青年評議会（NIYC）は、北西部地域の部族による漁業権闘争のフィッシュインに参加し、公民権運動や首都ワシントンでの「貧者の行進」にも加わった。70年代には、他国の先住民の権利問題にも取り組んだ。しかし、当時の文書からは、リーダーシップや財政面で、しばしば多くの課題に直面していたことが明らかとなった。

また、1960・70年代には、先住民の視点にたって、アメリカ史をとらえなおす試みもなされた。1964年にR.コスト夫妻によって、サンフランシスコに設立されたアメリカ・インディアン歴史協会は、先住民文化の継承と理解促進のために、先住民の歴史や文化・言語に関する多くの著作や出版物を発行した。また、先住民の青年を対象とした会議を開催し、独自の新聞や雑誌を通じて、先住民をとりまく社会問題をテーマに取り上げた。アメリカ社会で先住民の視点と歴史観を打ち出し、世論に絶えずはたらきかけたことがわかる。

19年度には、日本アメリカ学会年次大会部会にて報告を行った。現代の平原部族（スー・シャイアン）が19世紀の虐殺や土地喪失の歴史的記憶をめぐって、1960年代以降、展開した運動について発表した。また、博士論文を加筆修正し、単著『アメリカ先住民の現代史—歴史的記憶と文化継承—』を出版した。同書では、合衆国の国民統合と多文化主義を射程に入れ、エンパワメントに向けたアメリカ先住民の軌跡と政治・文化戦略を考察した。以上を通じて、今後、さらに詳細に分析すべき課題を確認した。

(2) 平成20年度は、1960・70年代における米国中西部の平原部族の意識に焦点をあてて研究を行った。夏期休暇中、サウスダコタ州にて史料収集を行い、1960・70年代の先住民団体の記録や機関誌、オーラルヒストリーの記録を閲覧・複写した。スー族保留地が点在するサウスダコタ州では、1960・70年代にサウスダコタ大学のプロジェクトによって、先住民大学生や保留地住民に対するオーラルヒストリーの調査が行われた。その内容は多岐にわたるが、部族の長老・指導者から復員兵、一般の先住民学生に至るまで、幅広い層の声が記録されている。帰国後、これらの資料を分析し、当時の先住民運動や部族の自治、ベトナム戦争従軍、貧困・アルコール問題、先住民アイデンティティなどをめぐる平原部族の意識と見解を検討した。南西部や西海岸の先住民と比べて、中西部の先住民の場合は、概して保留地や部族に根差した意識の傾向が見られる。これには、保留地が地理的に隔絶され、都会から離れていることが一因と考えられる。

20 年度には、論文「スー族と連邦管理終結政策－1960 年代前半のサウスダコタ州管轄権法」を発表した。サウスダコタ州のスー族が、1960 年代初頭の連邦管理終結政策の動きに対して、部族の自治を守るためにとった対応を、当時のスー族評議会議事録や新聞記事などを資料に考察した。スー族は、保留地における州の管轄権拡大に対して、ときに州レベルで政治運動を展開することによって、抵抗を試みた。これは、部族レベルにおけるローカルな先住民運動の一例として注目に値する。

(3) 平成 21 年度は、主に米国西海岸地域において 1960・70 年代に展開したアメリカ先住民の社会運動に焦点をあてて検討した。夏期休暇を利用し、米国にて文献資料を収集した。まず、カリフォルニア州でアルカトラズ島占拠に関する文書を調査し、次にワシントン州で北西部沿岸地域の部族による漁業権運動に関する史料を閲覧・収集した。その結果、当時の運動団体の記録や機関誌、新聞記事などを通じて、運動のより複雑な展開と州・連邦政策への影響が明らかとなった。

北西部ワシントン州で発展した先住民の漁業権闘争は、1960 年代初頭から 70 年代初頭まで続き、当時の先住民運動の中では、長期にわたった事例である。全国インディアン青年評議会 (NIYC) メンバーのハンク・アダムズ(Hank Adams)のリーダーシップにより、黒人公民権運動のシットイン (座り込み) に倣って川でフィッシュインを実行し、メディアや著名人を動員した。また、州・連邦裁判所で漁業権が争われ、次第に世論を引きつけた。史料からは、非先住民による多くの支持とともに、現地に根強い反対派が存在したことが判明し、70 年代末に先住民に対するバックラッシュが高じた背景を読み取れる。

1969 年に起こったサンフランシスコ湾のアルカトラズ島占拠事件では、当時、西海岸の大学で学んだ先住民学生の間で、徐々に問題意識が育まれた様子が史料からうかがえた。彼らは Indians of All Tribes を結成し、メディアを利用して、一般アメリカ人の関心を先住民問題に引きつけようとした。当時の西海岸を中心とする対抗文化や他のマイノリティ学生の動きも、運動に影響を与えた。彼らは都市に暮らす先住民として、部族を超えた汎インディアン意識を呼びかけ、結束をはかろうとした。収集した資料は、占拠事件が当時、アメリカ社会にもたらしたインパクトも伝えている。

最終年度は、日本アメリカ学会年次大会アメリカ先住民分科会にて、1960・70 年代の先住民運動に関する近年の研究動向について報告を行い、有益なコメントを得た。また、共著でニューメキシコ州のボスケ・レドンド・メモリアルの設立経緯について執筆し、先住民と歴史展示の関係について論じた。今日のボスケ・レドンドをめぐる表象の変化は、1960・70 年代を通じて、先住民が歴史的記憶の回復にむけて働きかけた結果であった。

過去 3 年間の調査では、米国各地（中西部・南西部・西海岸・北西部）における先住民運動に関する一次資料を掘り起こし、運動内部の多様性と共通性を分析してきた。当時の先住民運動は、漁業権や保留地の自治、先住民政策批判など、直接の目的を異にしていたが、それらは先住民独自の意識に支えられ、次第に共通の先住民アイデンティティが育まれていった。運動に共鳴し、支援する先住民以外のアメリカ人も多くいたが、州・連邦政府との交渉ではしばしば困難に直面した。これらからは、ローカルな先住民運動が連動し、ナショナルな動きへと広がった背景を見てとれる。

近年、アメリカ史研究の分野では国民統合に関する議論が進んでいるが、当時の先住民運動は、マイノリティとして権利を主張しつつ、先住民独自の立場と差異の承認を求めることによって、国民統合による排除と包摂を回避する戦略をとったと言えよう。今後は、他のマイノリティ運動との異同をより詳細にとらえながら、この時期の先住民運動について考察を深めたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 内田綾子、スー族と連邦管理終結政策－1960年代前半のサウスダコタ州管轄権法、立教アメリカン・スタディーズ（立教大学アメリカ研究所）、査読無、Vol.30、2008、117-133

〔学会発表〕（計２件）

① 内田綾子、「アメリカ先住民と1960・70年代」日本アメリカ学会第43回年次大、アメリカ先住民研究分科会、2009年6月7日、津田塾大学

② 内田綾子、「記憶の継承にむけて―アメリカ先住民の場合」日本アメリカ学会第41回年次大会部会、2007年6月10日、立教大学

〔図書〕（計２件）

① 内田綾子、北米の小さな博物館２「ボスケ・レドンド・メモリアル－ナヴァホとメスカレロ・アパッチの強制移住の地」北米エスニシティ研究会、彩流社、2009、16－25

② 内田綾子、アメリカ先住民の現代史－歴史的記憶と文化継承－、名古屋大学出版会、2008、434

６．研究組織
(1)研究代表者
内田　綾子（UCHIDA　AYAKO）
名古屋大学・国際開発研究科・准教授
研究者番号：20283468